

図書館への提案

C1240463 小笠原南翔

1.はじめに

東北公益文科大学（公益大）には、蔵書数が約12万冊、閲覧席が161席の図書館がある。本レポートでは、公益大生が図書館をこれまで以上に利用したくなるアイデアを提案する。

2.自習スペース

2.1. 現状

公益大1年生の友人に図書館を利用した感想のインタビューをしたほか、それを踏まえたうえで私が実際に図書館に足を運んだ。

図書館の魅力として、幅広い分野の蔵書があることや、静かな環境で自習ができるこ^とと、お金がかからないことの3点が挙げられた。

逆に、静かすぎることや、飲食禁止であるところは気になる点だ。

2.2. 課題

課題をたてるにあたり考えなければならない点は、静かすぎるが故に咳払いやページを捲る行為、友達との軽い会話に気を使わなければならぬことである。

「静かすぎる」という顕在的ニーズの裏には、友達と一緒に相談しながら勉強したいということや、自らが立ててしまう音を抑える気遣いをせずに勉強をしたいというような潜在的ニーズがあると私は考える。

2.3. 提案

『課題』で述べたニーズを踏まえ、図書館ではありながらも多少の会話や物音が許容されるような「自習スペース」をつくることを提案する。

この自習スペースでは、現在の図書館と同様、参考書などを持参して勉強ができたり、館内の本を自由に持ち込んで閲覧することができる。それらに加え、会話や物音が許され、利用者が気を使わずに音を立てられる雰囲気作りのために音楽が流れる。

また、今まで通り館内を静かに利用したい人に考慮し、3階に防音扉をつけたうえでスペースを設ける。既存のグループ学習室とは違い、オープンな空間で大人数が自由に

利用できるようにして、利用手続きなどの必要をなくす。

2.4. 費用対効果

新しくスペースを設けるにあたり、壁や扉の施工、施設の安全を守るための防犯カメラの設置などで費用は大きくなるが、学内の生徒はもちろん、一般客にとっても利用しやすい空間ができ、図書館への来館者数が増えるため大きな効果が得られる。

幅広くたくさんの蔵書がありながらも、「図書館」だけでなく「自習室」としての利用もできるようにし、ラーモンズ、共同研究室などと並び勉強場所の選択肢の1つとして確立する。

3.おわりに

本レポートでは、「静かすぎる」ことが図書館を利用するときに気になってしまう点であり、音を立てても良い空間を作るとより利用しやすいのではないかということを述べた。

よって、図書館をより利用したくなるようなアイデアとして、自習スペースの設置を提案した。